

福島県飯舘村における感想レポート

国際交流学科3年 SS

はじめに

私は福先日福島県飯舘村を訪れ、そして多くのことを学んで帰宅した。福島県飯舘村を訪れる前は、講義を通じて被災されてから現在に至るまでの飯舘村の現状について学び、また東京大学五月祭においてはまでい牛の飼育とその畜産としての活用について学んだ。これらによって予備知識を得ていたが、やはり実際に飯舘村を訪れてみないとわからないことが多々あった。例えば私の場合メディアの弊害によるものかもしれないが、被災した地域では多く瓦礫によって埋め尽くされ土色の土地が広がっているように思っていた。大変無知であることを正直に告白するが、思いのほか緑が多い豊かな草原が広がっていることに驚きを隠せずにおり、また同様に、私のように被災地の現状について勘違いをしている人々にこの豊かで美しい自然を多くの人に知ってもらいたいと感じた。以下の記述では具体的に何について学んだかを書くことと同様に印象に残ったことについて書く。

【菅野さん宅とモデル除染地伊丹沢】

まず私たちは菅野さん宅のお宅を訪れた。私は祖父母ともに都内に住んでいることから、マンション住まいに慣れていたので、古き良き時代を感じさせる昔ながらの邸宅に感動していた。そこで菅野さん含め田尾さん、東大教授の方など多くの方々が飯舘村の現状について個々の視点から詳しく説明してくださった。放射線についての構造については詳しく知れたことも素晴らしかったが、特に印象に残ったのは実際に飯舘村に住んでいた菅野さんの体験を詳しく知れたことだった。昨今私たちはメディアを媒介して情報取得することが多く、やはりメディアによっては編集者の価値観、情報取捨選択に基づく編集がおこりかねない。そんななかでも、メディアを媒介せず実際に体験した方々のお話を聞けることはとても実りある体験になったと思う。

次に私たちは車に乗り、飯舘村について案内していただいた。私は窓からよく風景が見えたので、よく風景を目に焼き付けていた。都会にはない緑豊かな景色であったが、残念ながら多くの黒いシートに覆われたフレコンバッグが元来田んぼであった土地や、様々な場所に点在していた。また一定数フレコンバッグがおかれると緑のシートが上からかぶせられるという話を乗車内で聞き、多くのフレコンバッグがここに密集していることに悲しみを感じさせた。自分の故郷がこのようにフレコンバッグを置かれるままの状況は私には耐え難い以上に、想像しうるに絶する気持ちであろうと感じた。これは政府に対して何かしら早急に対応してほしいと感じた。

フレコンバッグの例が当てはまるように現地 NPO と政府間、あるいは東京電力会社の間には大きな摩擦があると感じた。モデル除染地の伊丹沢におけるお米の試食についてもそうだが、稲から同じセシウム量が出てきたのであれば試食は積極的に進めるべきである。現地の方々の前向きな姿勢による自立を阻害する要因になりかねないと感じた。このような摩擦は多く存在しているなかでも特に菅野さんが話してくれたことで印象に残っているのは「この原発事故は国を超えて考えるべき問題である」というお話である。日本の隣にある中華人民共和国で仮に原発事故が起きたなら、日本に PM2.5 や黄砂が飛んできて以上放射性物質が飛んでくる可能性は高い。私たちは原発事故に人ごとにならず国を超えて考えるべきであると菅野さんの話を聞いて感じた。福島県を訪れる前の高尾先生の講義で題材となった組織社会学での一例も踏まえたうえで、私たちは組織人としてではなく一個人として原発事故に向き合うべきだと感じた。長泥での立ち入り禁止区域のような地域を増やさないためにも、そういった活動が必要になってくるのではないだろうか。

【終わりに】

私は福島県から神奈川に帰宅した際、事前に福島県飯舘村に行く伝えていたせいか、多くの友人や家族が福島県の様子について聞いてきた。放射線被ばく量が2マイクロシーベルト以下であり人間が過ごすにあたって基準値以下であることや、多くの緑豊かな地域に多くのフレコンバッグがおかれていたこと、様々なことについて経験したことを語った。聞いた友人や家

族ともに驚いた表情をしており、またフレコンバッグが多く置いてあることにひどく悲しんでいた。もしかしたら私と同様、友人や私の家族も、あまり情報が取得していないことによる偏った知識を有していたのかもしれない。しかしながら、フレコンバッグの件について心を痛めることができるのであれば、これが福島復興の一つの切り口になるのではないだろうかと感じた。こちらから支援していくのではなく、相互理解に基づいた、共同による復興を目指すきっかけである。今後はゼミの活動を通じて、多くの人々が相互に理解できる状況を作ることを目指し、自分が行動、活動していけることを模索していきたい。